一年生

入部して

南部清子

クラブに入ってヒヶ月経過した。未知のハンド・ボールと言う名にあこがれを持って、先輩の練習状態などを見て何か胸のすく思いをし、分らぬ事の最初の日の練習は、何か夢中で、先輩から肩が痛いなどと聞くと、嬉しかった。夏の合宿練習に参加し、午後からの練習は大変に厳しくて気持的にもがっかりするものであった。しかし、翌日すがすがしくて気持的にもがっかりするものであった。しかし、翌日すがすがしくて気持的にもがっかりするものであった。しかし、翌日すがすがし